

十二月二十五日㈭から二十八日㈮にかけて、町立総合体育館・B&G体育館で、「第十八回全国中学校選抜若鷲旗剣道大会」「第十五回全国中学校選抜若鷲旗大会」が開催されました。男女あわせて百二十四チームが参加し、いずれも全国大会出場や県新人戦優勝などの強豪チームで、中学校剣士あこがれが開催されました。

十二月二十五日㈭から二十八日の全国大会となっています。始めての三日間は練成大会としてリーグ戦が行われ、最終日には三日間の成果を試す若鷲旗大会が行われ、白熱した試合が繰り広げられました。上郡中学校は男子Aチームがベスト十六に進出。惜しくも僅差で負けましたが、夏の全国大会を期待させる好試合となりました。



気合いのあふれる試合が展開されました

上郡で全国大会の足掛かりを

全国中学校選抜若鷲旗剣道大会



「もっと上がり」と田んぼを駆け回りました

△努力賞 大下直人(小二)
▽高くあがつたで賞 竹一
▽アイデア賞 今川法子(小一)
小一)、三宅慧(小一)、植田裕(小一)、松本侑子(幼年長)

でたこあげ大会。田んぼまでも駆け回り、要領を覚えたり、喜びを感じてもらおうとしたが、全員がじように上げ始めました。子どもたちも天高く舞う手作りたこに満足した様子で、楽しい一日となりました。各賞は次のとおりです。
(敬称略)

一月十七日㈯ 鞍居公民館ふれあい事業の一環として、「たこあげ大会」が行われました。小学校の終業時に公民館から参加希望者に竹ひごや紙を配り、

冬休みを通して親子のふれあいや作る喜びを感じてもらおうとするもので、二十年來の恒例行事となっています。

当日は、幼稚園児から小学校

親子手作りたこが勢ぞろい

鞍居公民館たこあげ大会



思い思いの手作りたこが集まりました

六年生までの四十四人が、力作の竹ひごを組み、貼った紙に干

支の虎やアニメキャラクターなどを、思い思いの絵を描いたたこが集まり、中には奴だこや連だこなど本格的なものもありました。

審査の後は、小学校東側農道

男女チー／＼とも大健闘

西播磨世代間交流駅伝競走大会



昨年の十二月一日㈪、兵庫県生活学校大会の席上、上郡生活学校(松尾カズ子会長)に知事感謝状が贈られました。これは二十年にわたる生活学校運動の実績が認められたもので、同学校は昭和五十二年に開校して以来、各地区ごとに月一回の河川清掃、年二回の廃油回収を継続して行っています。



受賞おめでとうございます (写真:役員のみなさん)

環境にやさしい生活に…

研修会など、身近な日常生活の問題などに取り組んでいます。

そして、環境にやさしい粉石けんの共同購入やトレー回収の奨励、

大会には西播磨四市二十一町協賛イベントとして「西播磨世代間交流駅伝競走大会」が、一月十六日、播磨科学公園都市周辺コースで行われました。

播磨科学公園都市まちびらき協賛イベントとして「西播磨世代間交流駅伝競走大会」が、一月十六日、播磨科学公園都市周辺コースで行われました。

大会には西播磨四市二十一町から男女二十三チーム、女子二十チームが出場。小学・中学・高校・一般とそれぞれ思いをこめたタスキリレーが繰り広げられました。



受賞おめでとうございます

小河千鶴子さんは、昭和五十六年に教育生活

「大衆音楽」で喜びの輪を広げる

小河千鶴子さん「ともしび賞」を受賞

このたび兵庫県では、地域社会の発展、向上に尽くされた個人や団体に贈る「ともしび賞」を発表。当町から小河千鶴子さん(宿)が選ばれました。

音楽を通して、生活にゆとりやうるおいを感じることが一番大切」の持論をもつて地域に根をはつた活動をする中、落語家と声楽家、障害者や高齢者を交えた合唱を企画するなど、西播磨地域全体の音楽の普及・啓発そして質的な向上に多大な貢献をされています。

やうるおいを感じることが一番大切」の持論をもつて地域に根をはつた活動をする中、落語家と声楽家、障害者や高齢者を交えた合唱を企画するなど、西播磨地域全体の音楽の普及・啓発そして質的な向上に多大な貢献をされています。

このたび、元旦に配達された郵便局で盛大に「元旦出発式」を行われました。

町長から年賀状配達への激励に感謝の言葉が述べられると、職員のみなさんも年末からの労苦がむくわれる思いで、感慨もひとしおでした。

そして、テープカットの後、職員やアルバイトの方々が年賀状を満載した自転車やバイクにまたがり、元気いっぱいに出発しました。

真心の年賀をお届けします

郵便局で盛大に「元旦出発式」を開催



元気いっぱい配達に出発!

町内での年賀状総数は、五十一万四千通にのぼり、一人あたり約二十六通平均となりました。

を退いた後、「あさぎりコーラス」をはじめ、多くのコーラスグループの育成・指導に努められました。

とりわけ、「歌謡曲や童謡など誰もが気軽に楽しめる『大衆音楽』を通じて、生活にゆとり

音楽を通じて、生活にゆとり

音楽を通じて、生活にゆとり

音楽を通じて、生活にゆとり